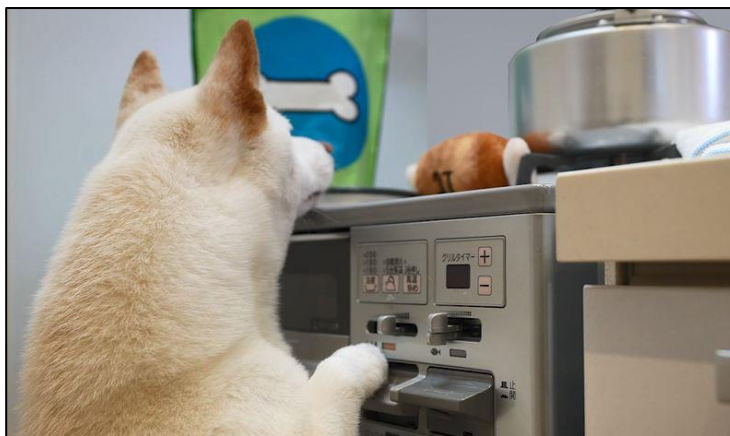




“もふもふブッシュ”にご用心 ～「ペットによる火災事故」を防ぐポイント～

昨今、ペット^{※1}の家族化やコロナ禍での自宅時間の増加に伴い、ペットを家の中で飼う人が増えました。犬・猫においては90%以上が室内飼^{※2}であるといわれています。家族の一員として癒しを与えてくれる一方で、ペットの思わぬ行動によって火災を伴う事故が発生しています。独立行政法人製品評価技術基盤機構〔NITE（ナイト）、理事長：長谷川 史彦、本所：東京都渋谷区西原〕は、「ペットによる火災事故」について注意喚起し、事故を防ぐポイントについてお知らせします。



ガスこんろの操作ボタンを押す犬（イメージ）

【※動物の安全に配慮して撮影しています。また、資料中の全ての製品と動物は実際の事故とは無関係です。】

2013年度から2022年度までの10年間にNITE（ナイト）に通知された製品事故情報^{※3}では、ペットによる事故^{※4}は61件発生し、うち約9割（61件中54件）が火災に至っています。飼い主の外出中に家で留守番をしていた犬や猫がこんろの操作ボタンやスイッチを押したことによる事故が多い他、ペットが電気製品に排尿したり、電源コードをかみついたりしたことによる事故も発生しています。

留守の時などペットから目を離す際は「ガスの元栓を閉める」、「ロック機能を使用する」、「ペットをケージに入れる」等、二重三重の対策をすることが大切です。また、日頃からかみつikyや排尿場所等のペットの行動習性を把握し、「電気製品を使用しない時はプラグを抜く」、「ペットが好む排尿場所付近に電気製品を置かない」等の対策が事故防止に有効です。

対策によって少しでも事故のリスクを減らし、ご自身やご家族、大切なペットの命を守りましょう。

■ペットによる事故を防ぐポイント

- 出掛ける際はガスこんろの元栓を閉め、IHこんろ・電気こんろは主電源を切る。
操作ボタンをロックする機能がある場合は使用する。
- 目を離す際や出かける際は、ペットをケージに入れる。
- こんろや暖房器具の周りには可燃物やペットの興味を引く物を放置しない。
- 電気製品を使用しない時はプラグを抜いて、ペットの行動範囲外に保管する。
- ペットが好む排尿場所付近に電気製品を置かない。

（※1）資料中のペットは、犬、猫、鳥、齧歯類など主に毛が生えている愛玩動物を指す。

（※2）詳細はP6「別紙1」を参照。

（※3）消費生活用製品安全法に基づき報告された重大製品事故に加え、事故情報収集制度により収集された非重大製品事故やヒヤリハット情報（被害なし）を含みます。

（※4）ペットの関与が確認されたものだけでなく、状況証拠から関与が疑われるものも含む。

1. 事故の発生状況

NITE が収集した製品事故情報のうち、2013 年度から 2022 年度までの 10 年間に発生したペットによる事故 61 件について、発生状況を示します。

1-1. 年度ごとの事故発生件数

図 1 に「年度ごとの事故発生件数」を示します。ペットによる事故は、約 9 割（61 件中 54 件）が火災事故に発展しているため、注意が必要です。

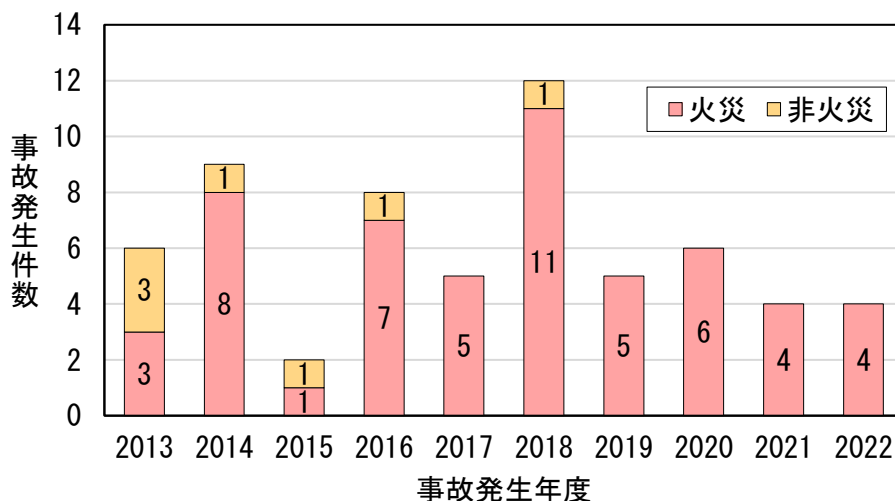


図 1 年度ごとの事故発生件数

1-2. 製品別・ペットの種類別の事故発生件数

表 1 にペットによる事故 61 件の「製品別・ペットの種類別の事故発生件数」を示します。製品別で件数が最も多いのはガスこんろで、犬や猫が操作ボタンを押したことで発火したと考えられる事故が発生しています。ペット別で件数が最も多いのは猫で、製品全般で事故が発生しています。また、猫は IH こんろや太陽光発電用パワーコンディショナー、プリンター等の高い位置にある製品に飛び乗って事故を発生させる傾向があり、猫の高い身体能力も事故に関係していると考えられます。

表 1 製品別・ペットの種類別の事故発生件数 ※()内は火災事故の件数

製品	ペットの種類				総計
	猫	犬	犬&猫	その他・不明	
ガスこんろ	16(15)	6(6)		1(1)	23(22)
配線器具 (延長コード・テーブルタップ等)	5(5)	2(2)	1(1)		8(8)
IH こんろ・電気こんろ	5(4)				5(4)
(石油・ガス・電気) ストープ	1(1)	2(1)	1(1)	1(1)	5(4)
ペット用ヒーター				3(3)	3(3)
太陽光発電用パワーコンディショナー	3(3)				3(3)
プリンター・ファクシミリ	3(2)				3(2)
リチウムイオンバッテリー搭載製品		2(0)	1(1)		3(1)
その他電気製品	2(2)	5(4)		1(1)	8(7)
総計	35(32)	17(13)	3(3)	6(6)	61(54)

1-3. 事象別の事故発生件数と被害状況

表 2 に「事象別の事故発生件数と被害状況」を示します。事象別では「ペットがこんろの操作ボタンやスイッチを押したことで発火」したものが最も多く、飼い主が外出時に留守番をしていたペットが死亡する事故も 2 件発生しています。

表 2 事象別の事故発生件数と被害状況 ※〇内は火災事故の件数

事故事象	飼い主		ペット		※5 拡大被害	製品 破損	総計
	死亡	負傷	死亡	負傷			
ペットがこんろの操作ボタンやスイッチを押したことで発火	0	1(1)	2(2)	0	24(22)	0	27(25)
ペットの尿や抜け毛に付着した水分によるトラッキング現象※6で発火	0	0	0	0	13(13)	6(4)	19(17)
ペットが配線器具やバッテリーをかんだことでショートして発火	0	0	1(1)	1(1)	8(5)	0	10(7)
ペットの接触により製品の熱源に可燃物が触れて着火	0	0	0	0	4(4)	0	4(4)
ペットの糞尿等によりガス配管が腐食し漏れたガスに引火	0	0	0	0	0	1(1)	1(1)
総計	0(0)	1(1)	3(3)	1(1)	49(44)	7(5)	61(54)

(※5) 製品本体の被害にとどまらず、周囲の製品や建物に被害が及ぶことを拡大被害としている。

(※6) 詳細はP7「別紙2」を参照。

1-4. ペットの行動別の事故発生件数の割合

図 2 に、事故に関係したペットの種類が犬である事故 17 件と猫である事故 35 件についてのペットの行動別の事故発生件数を示します。「押す」や「排尿する」、「倒す」といった行動は犬・猫共通の特徴ですが、犬特有の行動として「かむ」行動、猫特有の行動として「高所に登って排尿する」行動も考えられるため、飼育しているペットの行動習性にも注意が必要です。

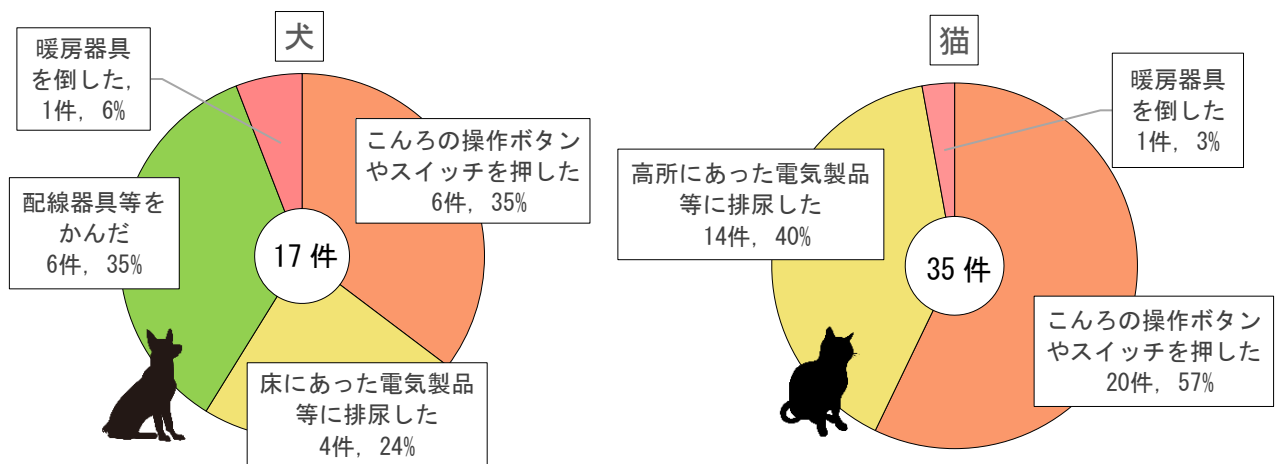


図 2 犬・猫の行動別の事故発生件数の割合

2. 事故事例と気を付けるポイント

■事例①：飼い主が外出時に、犬がガスこんろの操作ボタンを押した事故

2022 年 7 月（愛知県、60 歳代・女性、拡大被害）

【事故の内容】

飼い主が外出時に、事務所でガスこんろ及びその周辺を焼損する火災が発生した。

【事故の原因】

室内で飼っていた犬が操作ボタンを押したことでこんろの火が周囲の可燃物に着火し、火災に至ったものと推定される。なお、ガスこんろの操作ボタンはロックがかかっておらず、左右こんろの間には犬の餌が入った樹脂製容器が置かれていた。

【SAFE-Lite 検索キーワード】

ガスこんろ、犬



ガスこんろの操作ボタンを押す犬(イメージ)

■事例②：飼い主が外出時に、猫がIHこんろのスイッチを押した事故

2014年8月（大阪府、20歳代・女性、拡大被害）

【事故の内容】

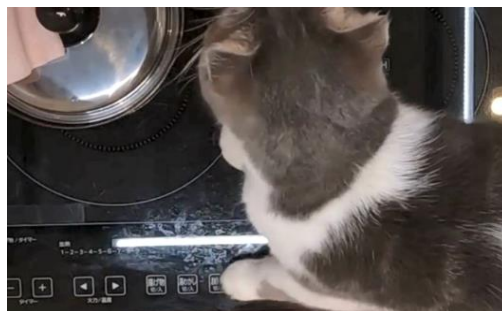
飼い主が外出時に、IHこんろ及びその周辺を焼損する火災が発生した。

【事故の原因】

室内で飼っていた猫がスイッチを押したことにより、トップレート上の金属製ボウルがIHヒーターにより加熱され、接触していた可燃物が出火したものと推定される。

【SAFE-Lite 検索キーワード】

IHヒーター、猫



IHこんろのスイッチを押す猫(イメージ)

■事例③：飼い主が外出時に、猫がプリンターに尿をかけたことによる事故

2014年7月（岐阜県、40歳代・男性、拡大被害）

【事故の内容】

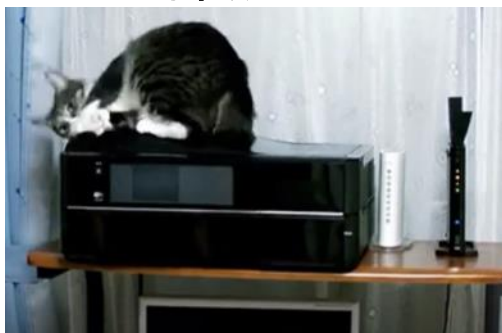
飼い主が外出時に、リビングに設置していたプリンター及びその周辺を焼損する火災が発生した。

【事故の原因】

室内では複数匹の猫（15匹）を飼っており、猫がプリンターに尿をかけたことにより、内部の電気部品でトラッキング現象が発生し、発火したものと推定される。

【SAFE-Lite 検索キーワード】

プリンター、猫



プリンターに尿をかける猫(イメージ)

■事例④：ペットが暖房器具と可燃物を接触させた事故

2018年11月（兵庫県、年齢・性別不明、拡大被害）

【事故の内容】

電気ストーブを使用中、床に転倒し周辺が焼損する火災が発生した。

【事故の原因】

室内では複数匹のペット（犬1匹と猫6匹）を飼っており、ペットが電気ストーブに接触したことで電気ストーブが床に転倒し、付近に置かれていた枕にヒーター面が接触して着火したものと推定される。

【SAFE-Lite 検索キーワード】

電気ストーブ、犬、猫



電気ストーブに可燃物が接触(イメージ)

■事例⑤：犬がリチウムイオンバッテリー搭載製品をかんだ事故

2016年2月（兵庫県、70歳代・男性、拡大被害）

【事故の内容】

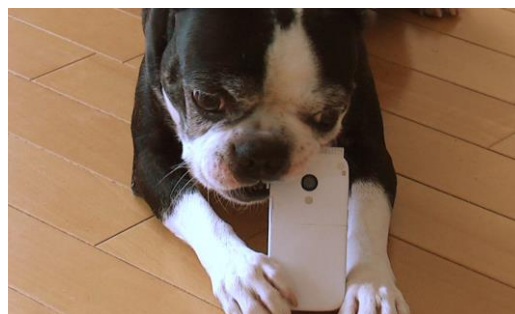
モバイルWi-Fiルーターが発火し、製品及び床が焦げた。

【事故の原因】

室内で飼っていた犬が、床の上で充電されていたモバイルWi-Fiルーターにかみつки、製品を変形させたためショートして、事故に至ったものと推定される。バッテリーには局所的な力が加わったことを示すへこみが認められた。

【SAFE-Lite 検索キーワード】

バッテリー、犬



リチウムイオンバッテリー搭載製品をかむ犬(イメージ)

ペットによる事故を防ぐためのポイント

- 出掛ける際はガスこんろの元栓を閉め、IH こんろ・電気こんろは主電源を切る。操作ボタンをロックする機能がある場合は使用する。

ペットがガスこんろに寄りかかったり、IH こんろの上に登るなどして操作ボタンやスイッチを押してしまうことがあります。万が一そのような事態になっても火災につながらないように、ペットを家に残して出掛ける際は、ガスこんろは元栓を閉めて、IH こんろや電気こんろは主電源を切ってください。また、操作ボタンをロックする機能がある場合はロックをかけるようにしてください。



ガスの元栓を閉める様子

- 目を離す際や出かける際は、ペットをケージに入れる。

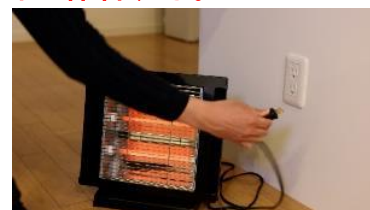
ペット（特に犬や猫）は行動範囲が広いので、出掛ける際は室内で放し飼いせずケージに入れておくことも、大切なペットを火災から守るために有効な対策の1つです。

- こんろや暖房器具の周りには可燃物やペットの興味を引く物を放置しない。

こんろや暖房器具の周りに可燃物やペットの興味を引く餌・おもちゃ等を放置していると、ペットがこんろの火を点けたりストーブを倒したりした際に、製品の熱源に可燃物を接触させてしまうことがあります。また、IH こんろの場合は金属製の鍋やポウルなどもトッププレート上に放置しないようにしてください。誤ってスイッチが入った場合に加熱されるおそれがあります。

- 電気製品を使用しない時はプラグを抜いて、ペットの行動範囲外に保管する。

ペット（特に犬）は、電源コードやバッテリーをかんで、ショートさせることがあります。電気製品を使用しない時や外出時はプラグを抜いて、ペットの行動範囲の外に保管しましょう。



プラグを抜く様子▶

- ペットが好む排尿場所付近に電気製品を置かない。

ペットの尿によるトラッキング現象で電気製品の火災事故が発生しています。ペットが好む排尿場所等に配線器具や電気製品を置かないようにしましょう。特に猫は、高い位置にある製品でも飛び乗ることができるため、注意してください。

事故品・事故事例を確認

- 過去にどのような事故が発生しているか確認する。

NITE はホームページで製品事故に特化したウェブ検索ツール「SAFE-Lite（セーフ・ライト）」のサービスを行っています。製品の利用者が慣れ親しんだ名称で製品名を入力すると、その名称（製品）に関連する事故の情報が表示されます。

また、事故事例の【SAFE-Lite 検索キーワード例】で例示されたキーワードで検索することで、類似した事故が表示されます。

<https://www.nite.go.jp/jiko/jikojohou/safe-lite.html>



お問い合わせ先

独立行政法人製品評価技術基盤機構 製品安全センター 所長 大下 龍蔵

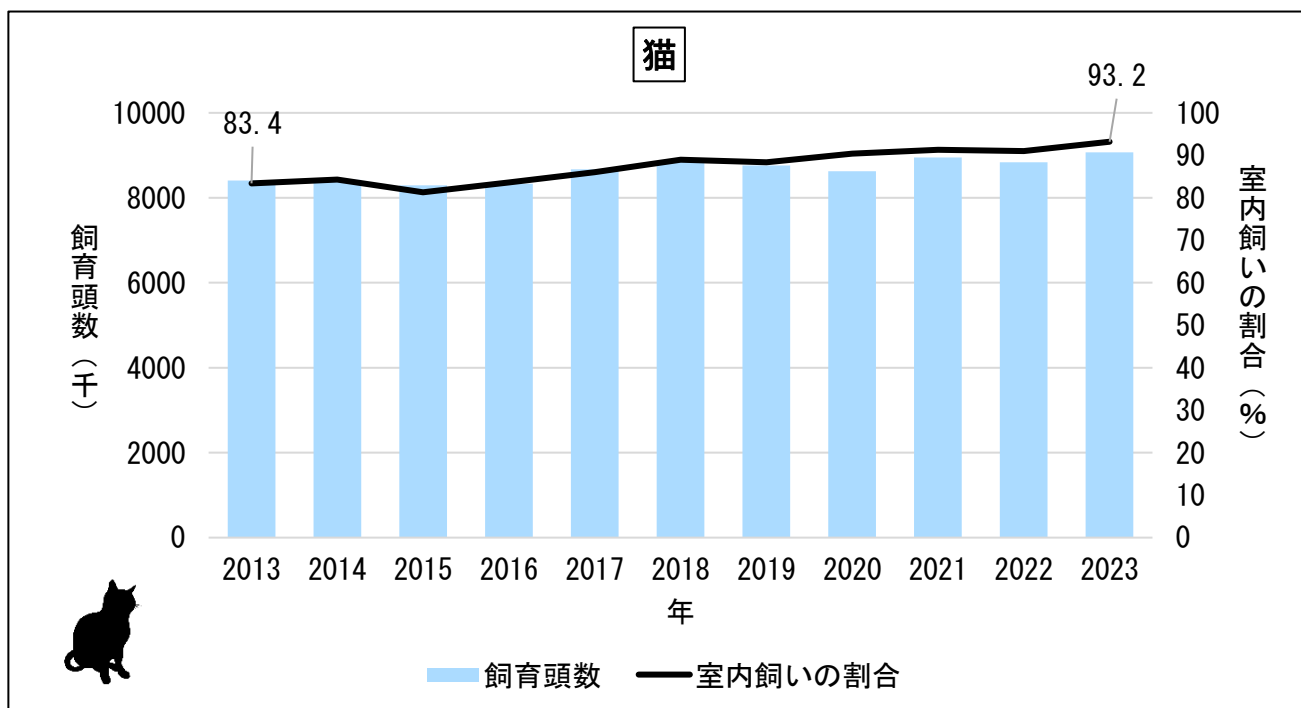
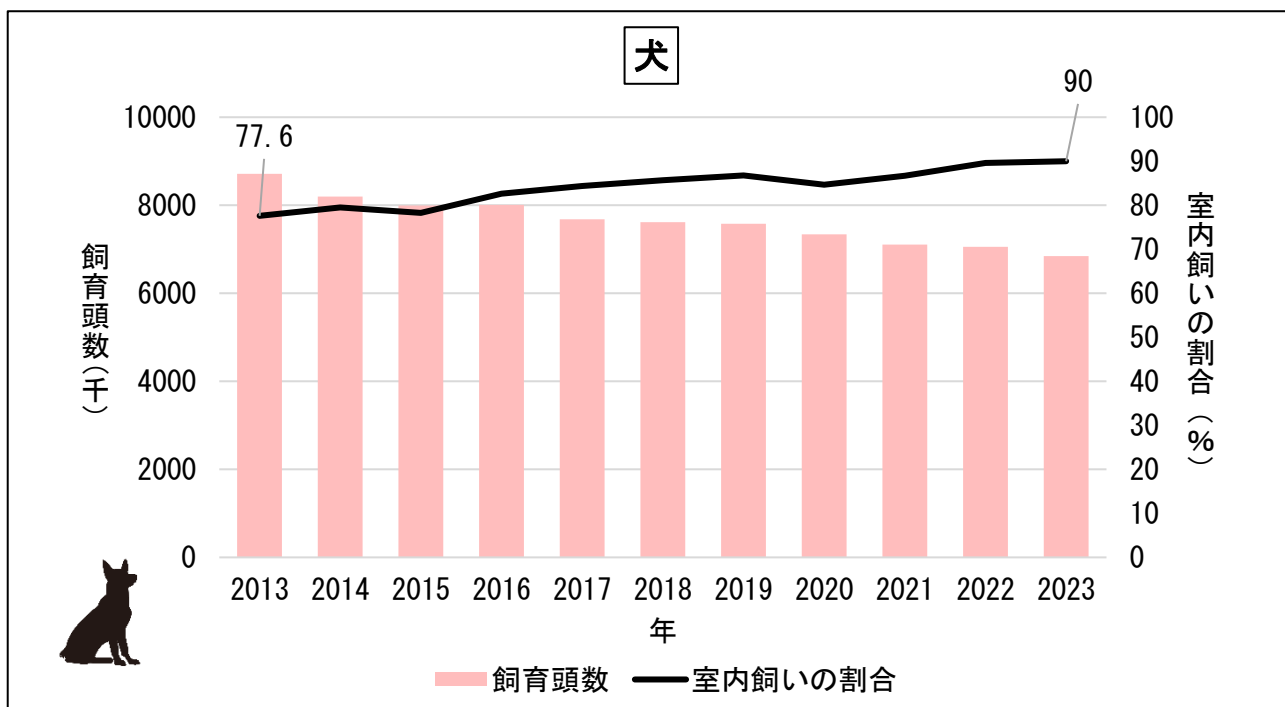
担当者 製品安全広報課 宮川 七重、山崎 卓矢、安元 隆博

Mail : ps@nite.go.jp

Tel : 06-6612-2066

犬・猫の飼育頭数と室内飼いの割合の推移

一般社団法人ペットフード協会が実施した調査における、全国の犬・猫の「飼育頭数」及び「室内飼いの割合」の推移を以下に示します。

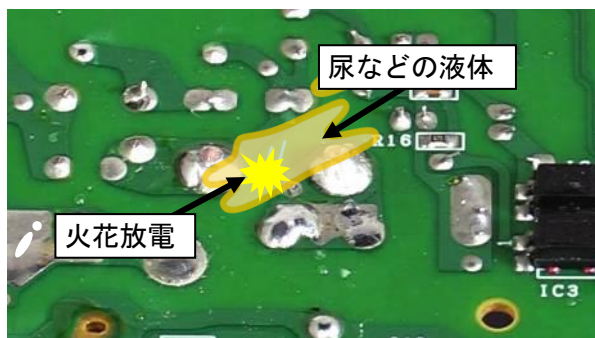


※「散歩・外出時以外は室内で飼育していること」を室内飼いとす。

※出典：一般社団法人ペットフード協会「全国犬猫飼育実態調査」を基にNITEが作成

トラッキング現象について

電気製品の内部でトラッキング現象が発生するメカニズム



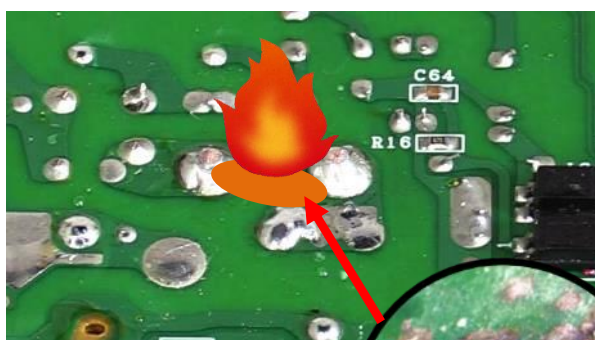
尿などの液体の付着によって配線間で微少な火花放電が発生。



火花放電により、配線間の絶縁体がわずかに炭化。



液体の乾燥や再付着を経て、火花放電を繰り返し、少しずつ炭化範囲が広がっていき、炭化導電経路（トラック）が形成されていく。



配線間が炭化導電経路でつながり、ショートして発火。

◀形成された炭化導電経路（再現実験）